



767.6
Ky4

藝術唱歌選

教育樂書編纂會編

日本音樂雜誌株式會社發行

故郷の廢家

犬童球溪 作詩

W. S. Hays

下總院一編曲

Moderato

22.

mf

Con Ped.

一イ クト セ フ ル サ ト キ テ ミ レ バ
 ニ ム カ シ を カ タ ル カ ソ ヨ ク カ ゼ

ナ ク ハ ナ ナ ク ト リ ソ ヨ グ カ
 ム カ シ を う つ ナ カ ナ ヨ め る カ
 ム

ヂ セ カ ア ノ ハ ノ サ サ ナ キ
 カ ア シ ャ カ タ ミ ニ テ を と リ

モ テ ナ レ ニ シ ム カ シ ニ カ ハ フ ネ
 ナ ソ ビ シ と も ビ と い ま い ヅ

一〇、探梅

渡邊文雄作詩

一、氷もいまは ぬとなくきえ
ふちには魚の をどるも見ゆ
鳥とよそらを うちあふれば
はるの緑ぞ 満ちわたれる、

二、古果をいでて 啼くうぐひす
小松のかげに とを呼ぶ
わかき鳥ゆる 野邊に来れば
梅のかをりぞ ほのかにたつ、

三、柴折戸たて、 やさしき家
はな咲く前は こゝと知らる
園をもる、 春のかげは
緑の羽袖に たはひれ居る、

四、夕月しろく 木の間に見え
牛馬ふ子らも かへり行く
野邊守る老翁は われを呼びて
花のさかりに 復といひぬ

一一、故郷を離るゝ歌

吉丸一昌作歌

一、園の小百合、 薔子の千草、
今日は汝をながむる最後の日なり、
おもへば涙眼をひたす、
さらば故郷、さらば故郷、 故郷さらば、

二、つくし摘みし園邊よ、 社の森よ、
小船釣りし小川よ、 柳の土手よ、
別る。我を憐れ見よ、
さらば故郷、さらば故郷、 故郷さらば、

三、此處に立ちて、さらばと、 別を告げん、
山の陰の故郷、 静に眠れ
夕日は暮らして、 たそがれたり、
さらば故郷、さらば故郷、 故郷さらば、

一二、浦のありくれ

吉丸一昌作詩

一、むらさきの 横雲は
空にたなびきたり、
海は今さめて
夢路の暗を出でぬ、

(合 唱)
寄りくる波 かへる波
さらり さらと響き
松の風 そよと吹く、
のどかなる けふの海や、

二、網をつる 魚のかげ
あた、かなり岸邊
沖には白帆ぞ
雲に消えゆく、

三、海士の鳴り 黄昏れつ、
燈火は見え初めぬ、
ほのかに月さへ
磯の松に、

一二、故郷の廢家

犬童球溪作詩

一、幾年ふるさと、 来て見れば、
咲く花鳴く鳥、 そよぐ風、
門邊の小川の、 ささやきも、
なれにし昔に、 變らぬど、
荒れたる我家に、
住む人たえてなく、

二、昔をかたるか、 そよぐ風、
むかしをうつすか、 すめる水、
朝夕かたみに、 てをとりて、
あそびし友人、 今何處、
淋しきふるさとや、
さびしき我が家や、

不許複製



昭和十一年十月廿五日印刷
昭和十一年十月三十日發行

圖書出版

定價金七圓

發行所 教育圖書出版會
代表者 小松 耕 輔

發行所 東京都文京區根津七丁目一番地
目 録 三 策

印刷者 東京都文京區北新島町七十五
帆 須 幸 多 郎

發行所 東京都文京區根津七丁目一番地
日本書籍雜誌株式會社
總發行所 東京九二九〇七番
電話掛號(局)〇三三八番
會員掛號△一二三〇〇七番